

人工子宮技術時代における 生殖の意思決定のディレンマ

人工子宮技術(AWT:Artificial Womb Technology)の開発は人類史上最大の発明の一つであると言え、人々の生殖に対する考え方に不可逆的な変化をもたらすと想定される。そのため、AWTが引き起こす脅威や潜在的な誤用に対し、可能な限り迅速な対応が求められるだろう。AWTの使用は一般的に受け入れられるであろうか。また、誰がAWTの主な対象者になるだろうか。

本セミナーでは、2024年12月に実施した2つの異なるシナリオに関する調査結果の新しいデータをレビューする。2つのシナリオとは、シナリオA(早産児を助けるために、すでに妊娠している女性に適用される部分的体外発生。女性の子宮がまだ必要であり、この方法は治療目的での使用に近い)、および、シナリオB(女性の子宮が不要な完全体外発生。体外受精で作られた胚をAWTに移植できる)である。

2月15日(土) 13:00-15:00

発表者

オレーヤージュ・シルヴィア・マリア, PhD

北海道大学・北海道医療大学

応用倫理・応用哲学研究教育センター 共同研究員

オンライン開催

参加には事前申込が必要です

言語：日本語

参加希望者はQRコードまたは
urlからお申込みください
申込締切：2025年2月14日16時まで



<https://forms.gle/LWMac6FZM3cAZUJq9>